

科目名	REL210: キリスト教文化入門					担当教員	小林 宏子	
開講期	秋	開講時限	月木4限	研究室	4204	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	1, 4	キリスト教ヒューマンイズムの精神に立脚し、他者とのかかわりの中で自己形成を行う力を身につけます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					1-①, 4-②	
キーワード	聖書、イエス・キリスト、神の愛、信仰、希望、倫理、芸術、聖人、宗教間対話							
授業の概要	複数講師による輪講形式でキリスト教文化の諸相について講義する。イエスは何を語り何を行ったのか、「イエスがキリストである」と信じることが、なぜ、人間の救いとなるのか、クリスチャンの信仰表現がどのような文化を形成してきたのかについて、キリスト教の歴史を踏まえながら、今もって世界に大きな影響を及ぼすキリスト教文化を多面的に考察する。							
達成目標	キリスト教とはどのようなことを目指している宗教であるかを正しく理解し、表現できるようになる。また、西洋思想の背後にあって、その文化形成に影響を与えたキリスト教の諸相を理解し、現代文化の考察に役立てることができるようになる。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業を通してキリスト教の信仰内容とその歴史を理解し、キリスト教文化の諸相について、自分自身の関心と問題意識を論述できる。 ・キリスト教文化の諸相を理解し、キリスト教の特徴について、問題提起ができる。 ・キリスト教文化に関し、自らの選んだテーマについて研究成果をまとめ、分かりやすく発表することができる。 							
評価方法	・授業毎の事前課題の提出 (24%)、授業毎のリアクションペーパー (27%)、研究発表 (19%)、期末レポート (30%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業毎の課題：事前に提示した通り課題を行い、提出できたかどうか。 ・リアクションペーパー：講義内容について問題意識を持って論述展開できるかどうか。 ・研究発表：キリスト教に関する自由研究の成果を分かりやすく発表できるかどうか。 ・期末レポート：最低一冊の参考文献を読み、関心を寄せるテーマについて問いを提起し、先行研究を踏まえつつ、理由を挙げて自分の考えを、自分の言葉で論じ得るかどうか。 							
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	ガイダンス：講義内容と課題の説明 宗教とは何か	講義・リアクションペーパー	自分の宗教観を振り返る 配布資料の復習
2	キリスト教の基本的特徴	講義・リアクションペーパー	テキスト①はじめに予習 配布資料の復習
3	イエスの生涯	講義、DVD視聴、リアクションペーパー	テキスト②マルコ福音書通読 配布資料の復習
4	旧約聖書 (1) モーセ五書と歴史書	講義・リアクションペーパー	テキスト①第1章前半予習 配布資料の復習
5	旧約聖書 (2) 知恵文学と預言書	講義・リアクションペーパー	テキスト①第1章後半予習 配布資料の復習
6	新約聖書 (1) 福音書	講義・リアクションペーパー	テキスト①第2章前半予習 配布資料の復習
7	キリスト教と音楽 (1) 神の民の讃美と教会音楽	講義・リアクションペーパー	キリスト教と音楽の関係を調べる。配布資料の復習
8	新約聖書 (2) パウロの書簡	講義・リアクションペーパー	テキスト①第2章後半予習 配布資料の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
9	キリスト教と音楽 (2) 典礼音楽と楽譜の関わり	講義・リアクションペーパー	クリスマスの音楽について調べる。配布資料の復習
10	イエズス会のヒューマニズム (1) イエズス会の宣教	講義・リアクションペーパー	テキスト①第3章予習 配布資料の復習
11	イエズス会のヒューマニズム (2) イエズス会と文学、霊性	講義・リアクションペーパー	テキスト①第4章予習 配布資料の復習
12	キリスト教の歴史 (1) 古代から中世まで	講義・リアクションペーパー	イエズス会について調べる。 配布資料の復習
13	キリスト教の歴史 (2) 宗教改革から現代	講義・リアクションペーパー	キリスト教のシンボルを調べる。 配布資料の復習
14	ミサ・暦・シンボル・美術	講義・リアクションペーパー	本学の教育理念をまとめる。 配布資料の復習
15	キリスト教倫理 (1) 差別と戦争への問い	講義・DVD視聴、リアクションペーパー	テキスト①第5章予習 配布資料の復習
16	キリスト教倫理 (2) 平和への願いと愛の教え	講義・DVD視聴、リアクションペーパー	テキスト①第6章前半予習 配布資料の復習
17	キリスト教と哲学 (1) 知解を求める信仰とその系譜	講義・リアクションペーパー	テキスト①第6章後半予習 配布資料の復習
18	日本の聖人たち・殉教者の霊性	講義・リアクションペーパー	テキスト①第7章前半予習 配布資料の復習
19	キリスト教と哲学 (2) 真理への愛 エディット・シュタインの思想と生涯	講義・リアクションペーパー	テキスト①第7章後半予習 配布資料の復習
20	エキュメニズム運動の歴史と現在	講義・リアクションペーパー	カトリックとプロテスタントの違いについて調べる
21	時代の必要に応えた人びと (1) アシジの聖フランチェスコ	講義・DVD視聴、リアクションペーパー	アシジの聖フランチェスコについて調べる
22	キリスト教と仏教 (1) ＜十牛図＞に見る己事究明	講義・リアクションペーパー	「十牛図」について調べる
23	キリスト教と仏教 (2) 宗教とは何かー ＜問われた者＞として生きる	講義・リアクションペーパー	「人はなぜ生きるのか」について考える
24	時代の必要に応えた人びと (2) マザー・テレサ	講義・DVD視聴、リアクションペーパー	マザー・テレサについて調べる。 期末レポート提出
25	研究発表 (1) 学生	発表と講評・リアクションペーパー	研究発表の準備
26	研究発表 (2) 学生	発表と講評・リアクションペーパー	研究発表の準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	研究発表 (3) 学生	発表と講評・リアクションペーパー	研究発表の準備
28	キリスト教の現代的意味	講義・リアペ・レポート返却・講評	テキスト①終わりに予習

テキスト	①山我哲雄『キリスト教入門』(岩波ジュニア新書) ②『新約聖書』(「人間学I」で配布したもの)
参考書	宮越俊光『早わかりキリスト教』(日本実業出版社) 来住英俊『気合いの入ったキリスト教入門<1>根本問題をつかめ』(ドン・ボスコ社)
その他 特記事項	授業には主体的な関心を持って参加して欲しい。尚、講師の都合により授業内容及び順序に変更が生じる可能性がある。

科目名	IDS210: 異文化間コミュニケーション					担当教員	C. Oliver	
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4205	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	3, 4	自己発信力に重点を置いた英語力を身につけ、英語を実践的かつ学術的に運用できます。専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					3-④, 4-②	
キーワード	intercultural communication, linguistics, social psychology, anthropology, critical thinking							
授業の概要	This course provides an introduction to intercultural communication as an area of study. Readings and lectures will cover basic definitions, concepts, and issues related to intercultural communication. As regular homework, students will keep a record of their own intercultural communication experiences. We will also carry out one lengthy intercultural simulation in class. Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.							
達成目標	Students will learn to understand “intercultural communication” (ICC) using concepts coming from linguistics, social psychology, and anthropology; to describe and analyze their own experiences of ICC; and to think critically about ICC in relation to problems in modern societies.							
到達目標	By the end of the semester, students will be able to understand key concepts related to ICC drawn from linguistics, social psychology, and anthropology and how they apply to specific examples; factually describe their own recent experiences of ICC and relate those experiences to concepts discussed in class; and explain, in writing, ways in which specific situations of ICC found in the world today are related to broader social and historical contexts and issues.							
評価方法	Participation 20%, Homework 40%, Tests (including final exam) 40%.							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> Participation: active participation in everyday class activities, including lectures and discussions; responses in in-class writing activities that demonstrate engagement with class content. Homework: submitted on time and according to instructions, thoroughly completed, provides factual description where required, demonstrates appropriate application of concepts covered in class. Tests: demonstrate ability to understand key concepts related to ICC and how they apply to specific examples, demonstrate ability to explain ways that specific situations of intercultural communication are related to broader social and historical contexts and issues. 							
準備学修の時間	For each 100-minute class session of this course, an average of 190 minutes is needed for out-of-class study (assignments, review, etc.).							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview	Lecture	Read course syllabus thoroughly, review class notes
2	Defining intercultural communication	Lecture, pair work	Read p. 34, review syllabus & class notes
3	“Culture” in intercultural communication	Lecture, pair work	Read pp. 9-10, 12-13; skim pp. 13-27; review class notes
4	Features of human communication: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
5	Features of human communication: meaning and context	Lecture, pair work	Read pp. 54-57, 68-71; review class notes
6	Communication and language: language and thought	Lecture, pair work	Write “ICC Experience” homework; read pp. 77-79, 83
7	Communication and language: aspects of meaning	Lecture, pair work	Read pp. 77-79, 83; review class notes
8	Non-verbal communication: silence	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	Non-verbal communication: functions	Lecture, pair work	Read pp. 86-87, 91-93; skim other pages in Ch. 9
10	Edward T. Hall: the first interculturalist	Lecture, pair work	Read pp. 49-50, 56, 96, 133; Write "ICC Experience" HW
11	Stereotypes: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
12	Stereotypes: aspects and effects	Lecture, pair work	Read pp. 152-153; review class notes
13	Values: basic concepts	Lecture, pair work	Read pp. 16-19, 42-49; review class notes
14	Values: kinds of values	Lecture, pair work	Write "ICC Experience" HW & "values" HW
15	Culture shock: definition, symptoms, varieties	Lecture, pair work	Read pp. 158-165; review class notes
16	Communication "events": basic concepts; preparation for Test #1	Lecture, pair work	Write "culture shock" homework; review class notes
17	Review; Test #1	Lecture, written exam	Study for test
18	Communication "events": dimensions of norms	Lecture, pair work	Write "ICC Experience" homework; review class notes
19	Intercultural training: principles and methods	Pair work, lecture	Read Ch. 16, especially pp. 186-187; review class notes
20	Intercultural simulation: do in class	Small-group discussion	Read handouts about simulation
21	Intercultural simulation: follow-up discussion	Small-group discussion, lecture	Review class notes
22	Social and historical contexts of intercultural communication: Quebec	Lecture, pair work	Write "ICC Experience" homework; review class notes
23	Social and historical contexts of intercultural communication: U.S. South	Lecture, pair work	Review class notes
24	Social and historical contexts of intercultural communication: American Indians	Lecture, pair work	Review class notes
25	Return Test #1 and go over results; preparation for Test #2 (final exam)	Lecture, pair work	Review textbook pages covered, handouts, class notes
26	Power and inequality in intercultural communication	Lecture, pair work	Write "ICC Experience" homework; review class notes
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Practical implications for the study of ICC; paths toward better knowledge and understanding of others	Lecture, pair / group work	Review class notes
28	Return Test #2 (final exam) and go over results; semester recap, including course evaluation	Lecture, small-group discussion	Write "ICC Experience" homework

テキスト	Hidasi Judit. <i>Intercultural Communication: An Outline</i> (三元社).
参考書	石井敏、久米昭元、長谷川典子、桜木俊行、石黒武人『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』(有斐閣)
その他特記事項	Lectures, readings, homework, and tests for this course will be in English.

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	飯田 純也	
開講期	春	開講時限	火金3限	研究室	4216	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	物語、聖書、映画、物語、モラル、パラブル、歴史、社会、抑圧、貧困、暴力、女性							
授業の概要	文学の裾野を広げ、広義の物語を通して人間と社会の関係性を研究する。物語の意義は問題提起にある。提起される問題は複数の学問領域に横断的に関わる。授業では、英語圏を代表する小説を取り上げ、現代とのかかわりで、物語が描く人間と社会を批判的に分析する。準備学習として、事前の指定DVD資料の視聴が求められる。小論文と期末レポートを書くためには、準備学習と授業を通してまとめられたノートが重要になる。							
達成目標	物語論の視点から、文学研究の意義と方法を学び、文学研究を通じて英語文化圏の歴史や社会を理解し、同時に文化を批判的に見る視座を獲得することを目標とする。さらに、毎回の講義内容を基に、自らの意見を事前配布資料と照らし合わせながら、小論文にまとめる能力を身につける。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 英語文化圏を代表する文学作品を物語として分析、批判、評価することができる 2. 作品が描く歴史的・社会的問題や課題を理解することができる 3. 作品で扱われている諸問題を人文科学、社会科学の視点から考えることができる 4. 問題意識をもって文学作品を見る習慣ができる 5. 議論をまとめる能力を身につけることができる 							
評価方法	①小論文(8/9回提出で計40%)では作品の背景を理解した上で、作品を分析、批判、評価できているか。②定期試験(30%)では何が問題か理解できているか、問題を分析的・批判的に、根拠を示し自分のことばで論述できるか。③シャトルカード(計30%)では問題意識をもって文学作品を見る習慣ができているか。							
評価基準	詳細は初回授業時に説明する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業紹介 ジャンルではなく物語 研究倫理の説明	講義、質疑応答、ペア ワーク	課題DVDのリストを基に入 手先を検討する
2	物語論:エンディングは問題提起(1) <i>Citizen Kane</i> (1941 movie)	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート
3	物語論:エンディングは問題提起(2) <i>Black Orpheus</i> (1959 movie)	講義、質疑応答、グル ープ討論	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート
4	物語論:エンディングは問題提起(3) <i>A Man and a Woman</i> (1966 movie)	講義、質疑応答、グル ープ討論	小論文no.1の準備(提出は次 回授業時)
5	聖書と文学 パラブルとは何か	講義、質疑応答	課題資料下調べ、筋と要点を ノート
6	聖書のパラブル アブサローム物語(英文)	講義、質疑応答、グル ープ討論	小論文no.2の準備(提出は次 回授業時)
7	暴力を繰り返す社会のパラブル(1) <i>Romeo and Juliet</i>	講義、質疑応答	課題DVD視聴、課題資料下 調べ、筋と要点をノート
8	暴力を繰り返す社会のパラブル(2) <i>Tristan and Isolde</i>	講義、質疑応答、グル ープ討論	小論文no.3の準備(提出は次 回授業時)

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	作品研究 <i>A Passage to India</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
10	作品研究 <i>A Passage to India</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 4 の準備(提出は次回授業時)
11	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
12	作品研究 <i>Vanity Fair</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 5 の準備(提出は次回授業時)
13	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (1) 分析の手がかり	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
14	作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> (2) 討論	質疑応答、グループ討論	小論文 no. 6 の準備(提出は次回授業時)
15	作家研究 Charles Dickens: <i>David Copperfield</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
16	作家研究 Charles Dickens: <i>Nicholas Nickleby</i>	質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
17	作家研究 Charles Dickens: <i>Oliver Twist</i>	講義、質疑応答	小論文 no. 7 の準備(提出は次回授業時)
18	作家研究 Jane Austen: <i>Sense and Sensibility</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
19	作家研究 Jane Austen: <i>Pride and Prejudice</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
20	作家研究 Jane Austen: <i>Mansfield Park</i>	講義、質疑応答	小論文 no. 8 の準備(提出は次回授業時)
21	英国社会研究 (1) 奴隷貿易と <i>Jane Eyre</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
22	英国社会研究 (2) 奴隷制度廃止運動と <i>Wuthering Heights</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
23	米国社会研究 (1) ピューリタン社会と <i>The Scarlet Letter</i>	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
24	米国社会研究 (2) 資本主義社会と <i>The Great Gatsby</i>	講義、質疑応答、グループ討論	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
25	英米社会研究 プロテスタンティズムの世界観	講義、質疑応答	課題 DVD 視聴、課題資料下調べ、筋と要点をノート
26	英米社会研究 総論	講義、質疑応答、グループ討論	小論文 no. 9 の準備(提出は次回授業時)
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	文学研究の応用「学際(interdisciplinary)とは」「予型論(typology)の罪」	講義、質疑応答、シャトルカード返却	課題資料下調べ、要点をノート
28	定期試験の返却と講評	講義、グループ討論	シャトルカードの読み返しと学修内容の振り返り

テキスト	テキストは特に使用しない。授業で扱う作品の英文資料(課題資料)を事前に配布する。
参考書	Herman, David, ed. <i>The Cambridge Companion to Narrative</i> (Cambridge University Press 2007).
履修条件、前提科目	この授業では世界史の知識が前提となるので、特に 18 世紀以降の英米を中心とする歴史を復習すること。

科目名	LIT201: 英文学概論					担当教員	平野 幸治	
開講期	秋	開講時限	火金5限	研究室	4210	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	parable & narrative (寓話と物語), bildungsroman (教養小説), social issues (社会問題)							
授業の概要	英文学をはじめは「ジャンル」を切り口に詩、劇、小説を取り上げ、次に「個人と社会」という視点を切り口にして作品の中の伝統、文化、風俗、歴史の意味や影響を考察する。作品のプロット・サマリーを英語で読み日本語で要約、指示されたDVDを見てメモを取る。グループでディスカッションや成果の発表を行う。教員の一方通行の講義ではない授業を展開する。発問の仕方、研究の方法論と知識を日常的に検証する。							
達成目標	この授業は、英語で書かれたプロット・サマリーを毎回配布し、学生が英文学研究に必要な用語・概念を理解し、具体的な作品を通して英米文学の歴史や文化を把握し、英文学の特徴を述べる事が出来るようになり、さらに文学作品のテーマや社会問題、比喩を理解して討論し、自分の意見を人前で述べ、論文が書けるようになることを目指す。							
到達目標	学期末には学生は、①グループディスカッションにおいて他者の意見を聞いて適切に質問や意見を述べる事が出来るようになる。②1,500字程度の文章が書け、発表できるようになる。③十分な具体例や作品からの引用を用いて、研究者としての倫理を踏まえた8,000字程度の日本語の論文が書けるようになる。							
評価方法	①授業内のグループディスカッションの報告専用フォームの提出4回(フォーム提出3%×4回=12%) ②授業内で個人の課題提出(1,500字程度)12回(課題4%×12=48%) ③研究者としての倫理を踏まえた最終課題(8,000字)の提出(10%) ④毎授業の終了時に回収するShuttle Cardに授業に関する質問や意見を適切な日本語で述べる(1%×30回=30%)。							
評価基準	授業の初回時に詳述します。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	イントロダクション: 英文学概論の目的と授業の進め方	講義、DVDの視聴用リストの配布	プリントの下調べとDVD視聴メモ作成
2	【パラブルと <i>Romeo and Juliet</i> 】 寓話・譬え話の持つ意味とは(1)	講義と①-1グループディスカッション	プリントの下調べと②-1個人の課題の作成と提出
3	【パラブルと <i>Romeo and Juliet</i> 】 寓話・譬え話の持つ意味とは(2)	②-1個人の課題の発表と返却・講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
4	【パラブルと <i>Tristan and Isolde</i> 】 神話と文学(1)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-2個人の課題の作成と提出
5	【パラブルと <i>Tristan and Isolde</i> 】 神話と文学(2)	②-2個人の課題の発表と返却・講義	プリントの下調べとDVD視聴メモの作成
6	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	ディスカッションの結果を踏まえた講義	人的相関図の作成と②-3個人の課題の作成と提出
7	【作品研究 <i>Jane Eyre</i> 】(2) 女性の自立と imprisonment (監禁)	②-3個人の課題の発表と返却・講義	人的相関図とプロットの展開図の作成
8	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	講義と①-2グループディスカッション	プリントの下調べと②-4個人の課題の作成と提出

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
9	【作品研究 <i>Vanity Fair</i> 】(2) 女性の自立と governess (女家庭教師)	②-4 個人の課題の発表 と返却・講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
10	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-5 個人 の課題の作成と提出
11	【作品研究 <i>Sense & Sensibility</i> 】(2) 婚姻と the class system (階級制度)	②-5 個人の課題の発表 と返却・講義	プリントの下調べと DVD 視 聴メモの作成
12	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-6 個人 の課題の作成と提出
13	【作品研究 <i>David Copperfield</i> 】(2) 婚姻と child labour (児童労働)	②-6 個人の課題の発表 と返却・講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
14	【作品研究 <i>Oliver Twist</i> 】(1) Street Children と child labour (児童労働)	講義と①-3 グループデ ィスカッション	プリントの下調べと②-7 個人 の課題の作成と提出
15	【作品研究 <i>Oliver Twist</i> 】(2) Street Children と social issues (社会問題)	②-7 個人の課題の発表 と返却・講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
16	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】(1) ヴィクトリア朝と bildungsroman (教養小説)	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-8 個人 の課題の作成と提出
17	【作品研究 <i>Wuthering Heights</i> 】(2) 個人と社会	②-8 個人の課題の発表 と返却・講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
18	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】(1) 婚姻と hypocrisy (偽善性)	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-9 個人 の課題の作成と提出
19	【作品研究 <i>Tess of the d'Urbervilles</i> 】(2) 個人と社会	②-9 個人の課題の発表 と返却・講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
20	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(1) 帝国と 20 世紀の文学	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	プリントの下調べと②-10 個人 の課題の作成と提出
21	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(2) 宗主国と植民地	②-10 個人の課題の発 表と返却・講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
22	【作品研究 <i>A Passage to India</i> 】(3) 異文化理解と文化的衝突	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	プリントの下調べと DVD 視 聴メモの作成
23	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】(1) アメリカ文学と 20 世紀	講義と①-4 グループデ ィスカッション	次回の下調べと②-11 個人 の課題の作成と提出
24	【作品研究 <i>Great Gatsby</i> 】(2) 現実と American dream (アメリカの夢)	②-11 個人の課題の発 表と講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
25	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】(1) 20 世紀と 21 世紀の英文学	ディスカッションの結 果を踏まえた講義	次回の下調べと②-12 個人 の課題の作成と提出
26	【作品研究 <i>The Remains of the Day</i> 】(2) 個人と社会	②-12 個人の課題の発 表と講義	人的相関図とプロットの展開 図の作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	【文学ジャンルと物語論】 小説とは？詩とは？	講義	③最終課題の作成と提出
28	21 世紀の英文学の行方と文学研究の意義と 個人課題の返却	講義と個人課題の返却 と講評	ノートおよびグループディス カッションの整理
テキスト	テキストはない。Sparknotes.com 等の plot summary を用いたプリントを配布。講義に用いる DVD の視聴用リストの配布。		
参考書	David Lodge. <i>The Art of Fiction</i> (Penguin Books). 都甲幸治『21 世紀の世界文学 30 冊を読む』(新潮社) 石塚久郎編『イギリス文学入門』(三修社)		

科目名	LNG200: 言語学概論					担当教員	近藤 佐智子	
開講期	春	開講時限	月木2限	研究室	4208	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文/発話の意味、言語のバリエーション							
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストと担当者の準備した資料(様々な練習問題を含む)をもとに講義およびディスカッション形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関する復習を質疑応答の形で行う。							
達成目標	本講の目標は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。							
到達目標	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系/構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語と外国語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。							
評価方法	理解度テスト(25%) 定期試験(45%) ブックレポート(20%) 授業参加度/提出物(10%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> 理解度テスト(25%) 学期の3分の1の内容についての理解と定着度を確認する。 定期試験(45%) 理解度テスト以降の内容についての理解と定着度を確認する。 ブックレポート(20%) : ブックリストにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(記述内容を理解した上で、章や節ごとにしっかりとまとめられているかどうか)と自分の見解(本から学んだことを踏まえ、どのような新たな発見があったか、どのような疑問が浮かんできたか、どのような課題が見つかったかなどについて論述できているかどうか)を含めたブックレポートを作成する。 授業参加度/提出物(10%) : 授業内(復習時、グループディスカッション)での発言や質問の回数と内容、提出物の成果、ブックレポートの口頭発表への参加(小グループ内で実施) 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview & the study of language 本講を概観する&言語を研究するとは?	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト全体に目を通す
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か?	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義・特性	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
4	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
5	History of English 英語の歴史: 古英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
6	History of English 英語の歴史: 中英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 3-5)、レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
7	History of English 英語の歴史：近代英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
8	Phonetics 音声学：言語音	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習
9	Phonology 音韻論：音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習
10	Phonology 音韻論：超分節音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習
11	Morphology 形態論：形態素とは？	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 10)、レジュメの予習・復習
12	Morphology 形態論：語形成	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 10)、レジュメの予習・復習
13	In-Class Test 理解度テスト (40分) Review 復習 (60分)	試験実施 講義、質疑応答	テキスト (ch. 1-10)、レジュメの予習・復習、テスト準備
14	Syntax 1 統語論 1 伝統文法、アメリカ構造主義言語学	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
15	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：言語観・アプローチ、テストの返却と講評	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
16	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則と変形規則	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
17	Semantics 意味論：語の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 13-16)、レジュメの予習・復習
18	Semantics 意味論：句・文の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 13-16)、レジュメの予習・復習
19	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 17-20)、レジュメの予習・復習
20	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意、ポライトネス	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 17-20)、レジュメの予習・復習
21	Communication and culture 文化と文脈、コミュニケーション	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 21-22)、レジュメの予習・復習
22	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 23-24)、レジュメの予習・復習
23	Sociolinguistics 社会言語学 言語政策	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 23-24)、レジュメの予習・復習
24	Second Language Acquisition 第二言語習得 様々な第二言語習得理論	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 25)、レジュメの復習、テスト準備
25	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 25)、レジュメの予習・復習
26	Review 定期試験範囲の総復習	講義、ディスカッション、質疑応答	テスト範囲の復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Presentation ブックレポート口頭発表	口頭発表 ディスカッション	ブックレポート提出
28	Test review 定期試験の返却、および解説 Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	長谷川瑞穂 (編著) 『はじめての英語学』 (研究社)
参考書	黒田龍之介 『はじめての言語学』 (講談社現代新書) 大津由紀雄 『探検！ことばの世界』 (ひつじ書房)

科目名	LNG200: 言語学概論					担当教員	神谷 雅仁	
開講期	秋	開講時限	月木3限	研究室	4215	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-②	
キーワード	言語とは、英語史、音素、語形成、生成文法、文/発話の意味、言語のバリエーション							
授業の概要	本講を通じて学生は普段何気なく使っている「ことば」を客観的に観察・分析することで、その本質を考察する。具体的には言語学の中心的なテーマである「言語構造」に関する内容と、言語とその他の分野との接点を、指定テキストをまとめたレジュメと担当者の準備したハンドアウト(練習問題を含む)をもとに講義形式で学んでいく。また理解促進のため毎授業時に既習内容に関するreviewを行う。							
達成目標	本講の目標は学生が対象言語となっている英語の音声・音韻の体系、語形成、文構造、文や発話の意味といった基本的な言語構造、および歴史やことばのバリエーション、言語と文化の接点や言語習得といった関連分野に関する基本的概念・理論に触れ、その理解を深めることを目標とする。							
到達目標	学生は言語学という学問分野の中で音、語、句・文、談話、そして意味のそれぞれがどのような体系/構造を有しているのかを理解し、それを自らの言語生活(母語、第二言語、および学習言語)に照らし合わせ、考察することができるようになる。同様にその他の関連テーマについても内容の理解だけにとどまらず、そこから自らがどのように日々言語を使用し、また学んでいるのかについて様々な発見や気づきを得ることができる。							
評価方法	▶中間試験(30%)、▶定期試験(40%)、▶Book Report(20%)、▶授業参加度(10%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ▶中間試験(客観式): 学期前半部分の学修内容について、用語、概念、理論的枠組みなどが言語例とともに理解され、定着しているかを確認する。 ▶定期試験(客観式): 学期後半部分の学修内容について、用語、概念、理論的枠組みなどが言語例とともに理解され、定着しているかを確認する。 ▶Book Report: Booklistにある指定図書の中から一冊を読み、内容の要約(記述内容を理解した上で、章や節ごとにしっかりとまとめられているか)と自分の見解(どのような発見があったか、どのような疑問が浮かんできたか、どのような課題が見つかったかなどについて分析的、批判的に論述できているか)を含めたブックレポートを作成する。 ▶授業参加度: 授業内での発言の回数と内容の正確性/妥当性をもとに評価する。 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	Course overview & the study of language 本講を概観する&言語を研究するとは?	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト全体に目を通す
2	What is Language? 人間にとって言語とは何か?	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	テキスト(ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
3	What is Language? 言語の定義	講義、ビデオ視聴、ディスカッション	Reaction paper作成、レジュメの予習・復習
4	What is Language? 言語の特性	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
5	What is Linguistics? 言語学という分野	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 1-2)、レジュメの予習・復習
6	History of English 英語の歴史: 古英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト(ch. 3-5)、レジュメの予習・復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
7	History of English 英語の歴史：中英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
8	History of English 英語の歴史：近代英語	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 3-5)、レジュメの予習・復習
9	Phonetics 音声学：言語音	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習
10	Phonology 音韻論：音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習
11	Phonology 音韻論：超分節音素	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 8-9)、レジュメの予習・復習
12	Morphology 形態論：形態素とは？	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 10)、レジュメの予習・復習
13	Morphology 形態論：語形成	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 10)、レジュメの予習・復習
14	Review of the first half 前半のまとめ Mid-term Test 中間試験	講義、質疑応答 試験実施	テキスト (ch. 1-10)、レジュメの予習・復習、テスト準備
15	Test review 試験結果の返却、および解説 Syntax 1 統語論 1：伝統文法	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
16	Syntax 1 統語論 1 アメリカ構造主義言語学	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
17	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：言語観・アプローチ	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
18	Syntax 2 統語論 2 生成変形文法：句構造規則と変形規則	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 11-12)、レジュメの予習・復習
19	Semantics 意味論：語の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 13-16)、レジュメの予習・復習
20	Semantics 意味論：句・文の意味	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 13-16)、レジュメの予習・復習
21	Pragmatics 語用論 語用論とは：基本概念	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 17-20)、レジュメの予習・復習
22	Pragmatics 語用論 発話行為、会話の含意	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 17-20)、レジュメの予習・復習
23	Communication and culture 文化と文脈、コミュニケーション	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 21-22)、レジュメの予習・復習
24	Sociolinguistics 社会言語学 言語のバリエーション&言語政策	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 23-24)、レジュメの予習・復習
25	Second Language Acquisition 第二言語習得 外国語教授法	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 25)、レジュメの予習・復習
26	Second Language Acquisition 第二言語習得 様々な第二言語習得理論 Review まとめ	講義、ディスカッション、質疑応答	テキスト (ch. 25)、レジュメの復習、テスト準備
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Think about language and human mind 言語と心について考える	講義、ディスカッション、質疑応答	関連する配布物の予習
28	Test review 定期試験の返却、および解説 Course review 全体のまとめ	講義、質疑応答	テスト問題の見直し

テキスト	長谷川瑞穂 (編著) 『はじめての英語学』 (研究社)
参考書	黒田龍之介 『はじめての言語学』 (講談社現代新書) 大津由紀雄 『探検！ことばの世界』 (ひつじ書房)

科目名	EDU205: 児童英語教育概説				担当教員	仲沢 淳子		
開講期	春	開講時限	火金4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4,5	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。地球市民的意識を形成し、多文化共生の実現のための実践ができます。					4-②, 5-②	
キーワード	児童英語教育、小学校外国語(英語)教育、第二言語習得、実践							
授業の概要	児童英語教育に関心のある者に向け、児童英語とは何か、その特性と代表的な教授内容を概観する。児童英語に関連して児童心理学、言語習得論、教育学、英語教授法など多岐にわたる専門分野の内容を扱う。学生は講義とグループワーク活動、指導実践、発表を通して児童英語教育についての基礎的な知識を学び、実践活動の疑似的体験を得る。							
達成目標	児童英語教育の基本的知識を学び、児童英語の英語教育における位置づけ、外国語習得および第二言語習得理論との関連から、児童期にはどのような教授法がふさわしいかを知る。児童英語の指導者としての疑似的な指導を体験し、そのために練習を積むことで、児童への効果的な指導が行える基礎力を身につける。							
到達目標	児童英語の教授法の基礎知識と応用アクティビティを実践する体験を通して、指導の際の基本的な観点を知る。さらに学生相互の実践演習を通じて、効果的な実践方を体験的に学び、レッスンプランの組み立て、指導の準備や練習の過程で児童英語教育に必要な表現、語彙、効果的な発音方法を知り実際の指導に生かすことができるようになる。							
評価方法	①授業時に課すコメントシート(20%)、②小課題・実践発表(30%)、③モデルレッスンプラン作成と発表(30%)、④期末課題(20%)。							
評価基準	①授業の内容を踏まえ、自分の学びを客観視して言語化しているか。②課題のポイントを的確に捉え、実践発表の事前準備、練習が十分になされ、協同的に取り組んでいるか。③児童の特性を踏まえた内容で、ねらい・時間配分・レベルが適切で実現可能なプランであるか。発表は明確で段取りに配慮と十分な準備、練習があるか。④学んだ内容を踏まえて省察した内容か。適切な事項を提示し、その背景と理由を明示しているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	児童英語教育が目指すものとは 従来の英語教育を概観する	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.2~21
2	外国語の指導法①: 学習指導要領、小中連携、 児童や学校の多様性への対応	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.22~24
3	外国語の指導法②: 言語習得とインプット、 コミュニケーションの目的や場面	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.25~37
4	外国語の指導法③: 音声から文字へ、児童文 学(絵本・歌・詩)、絵本模擬実践	講義、グループワーク、 模擬実践	予習: テキスト pp.96~103 絵本模擬実践の準備と練習
5	理論と実践: storybook reading ①	学生指導実践発表、コ メントシート	テキスト内容を復習整理 絵本模擬実践の準備と練習
6	理論と実践: storybook reading ②	学生指導実践発表、コ メントシート	テキスト内容を復習整理 絵本模擬実践の準備と練習
7	理論と実践: storybook reading ③	学生指導実践発表、コ メントシート	絵本模擬実践の準備と練習 予習: テキスト pp.38~66
8	外国語の指導法④: Classroom English, small talk、題材・教材選定、ICT活用	講義、グループワーク、 コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.67~91

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	外国語に関する専門的事項①: 英語の発音と綴り、文法と文構造、語彙	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.92~108
10	外国語に関する専門的事項②: 第二言語習得、異文化理解	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.109~128
11	外国語に関する専門的事項③: 英語コミュニケーション(4技能と領域統合型)	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 まとめレポート作成準備
12	まとめレポート(ピアフィードバックセッション)、アクティビティ模擬実践	グループワーク、講義、模擬実践	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
13	理論と実践: アクティビティ①	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
14	理論と実践: アクティビティ②	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
15	理論と実践: アクティビティ③	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
16	理論と実践: アクティビティ④	指導実践、学生発表、コメントシート	テキストの内容を復習整理 模擬実践の準備と練習
17	外国語に関する専門的事項④: 英語コミュニケーション総括	講義、グループワーク、コメントシート	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.133~142
18	外国語活動の指導法①: 中学年と高学年、発達心理学の基礎と認知・情緒発達	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.142~153
19	外国語活動の指導法②: 指導者の問題、HRTの役割とティームティーチング	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.154~173
20	外国語活動の指導法③: 中学年での外国語活動に適した活動や評価	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.174~193
21	外国語活動の指導法④: 指導法の概要まとめ、実際の指導に取り入れるには	講義、グループワーク、模擬実践	復習: ポイントを整理理解 予習: テキスト pp.174~153
22	発表: モデルレッシンプラン(1)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
23	発表: モデルレッシンプラン(2)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
24	発表: モデルレッシンプラン(3)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
25	発表: モデルレッシンプラン(4)・相互評価・講評	学生発表、相互評価、講評	復習: ポイントを整理理解 発表の準備と練習
26	相互評価まとめ[フィードバックセッション]・期末課題について提示	相互評価、講評、コメントシート	相互フィードバックの準備 期末課題の準備と作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	期末課題の総括、グループでの省察	相互評価、講評、コメントシート	期末課題の振り返り、 既習内容と関連付け整理
28	総評・振り返り	講義、講評、グループワーク	これまでの全体の復習

テキスト	小川隆夫・東仁美(著)、吉田研作(監修)『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために』(mpi 松香フォニックス)
参考書	上智大学 CLT プロジェクト・編『コミュニケーション型英語教育を考える: 日本の教育現場に役立つ理論と実践』(アルク)
その他特記事項	この科目は小学校での英語指導を行うサービスマスターリング活動への参加と連動した「児童英語教育演習 A/B」の前提科目である。

科目名	GMN101: ドイツ語 I				担当教員	工藤 花野		
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	基礎ドイツ語、初級ドイツ語文法							
授業の概要	初心者にとっての「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、総合的な基礎力を身につけます。							
達成目標	「読む・書く・聞く・話す」力の総合的な訓練により、ドイツ語の発音、基礎的文法力、基礎的表現力を合理的に身につける。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読みと発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の活用の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・簡単な会話や文章を理解し、作文できる。 ・日常で用いる基本的な語彙を身につける。 							
評価方法	授業参加の積極性 (10%)、授業毎の課題提出 (10%)、授業内試験 (40%)、定期試験 (40%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加 (個人やペア等での発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する) ・課題提出 (授業毎の短い課題提出により、授業内容・文法事項・進出語彙を確認する) ・試験 (授業内試験と定期試験により、文法・読み・書きの力を確認する) 							
準備学修の時間	本科目の一回 (100分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	導入、授業概要の説明 アルファベットと発音・挨拶・数字	演習 (発音)	テキスト (以下略) S.7-9 の整理、次回提出用課題準備 1
2	[Lektion 1] 出会いと自己紹介 動詞の現在人称変化 (語順 1)	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.10, 13 の整理 次回提出用課題準備 2
3	[Lektion 1] 出会いと自己紹介 sein の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.11, 13 の整理 次回提出用課題準備 3
4	[Lektion 1] 出会いと自己紹介 会話と作文・会話表現 1 (自己紹介)	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.12, 13, 76 の整理 次回提出用課題準備 4
5	[Lektion 2] 家族について尋ねる 名詞の性と定冠詞の格変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.14, 17 の整理 次回提出用課題準備 5
6	[Lektion 2] 家族について尋ねる 不定冠詞の格変化と haben の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.15, 17 の整理 次回提出用課題準備 6
7	[Lektion 2] 家族について尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.16, 17 の整理 次回提出用課題準備 7
8	[Lektion 3] 明日の予定を尋ねる 不規則動詞の現在人称変化	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.18, 21 の整理 次回提出用課題準備 8
9	[Lektion 3] 明日の予定を尋ねる 命令形	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.19, 21 の整理 次回提出用課題準備 9
10	[Lektion 3] 明日の予定を尋ねる 会話と作文	演習 (発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.20, 21 の整理 次回提出用課題準備 10

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	[Lektion 4] 買い物に行く(1) 定冠詞類	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.22, 25の整理 次回提出用課題準備 11
12	[Lektion 4] 買い物に行く(1) 不定冠詞類・所有冠詞・否定冠詞	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.23, 25の整理 次回提出用課題準備 12
13	[Lektion 4] 買い物に行く(1) 会話と作文・会話表現2(趣味と家族)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.24, 25, 76の整理 試験準備(S.7-25, 76, 77)
14	Lektion 1-4の総括・質疑応答(30分) 授業内試験(60分)	質疑応答 試験	S.7-25, 76, 77の整理
15	Lektion 1-4の総括・試験解答 [Lektion 5] 買い物に行く(2) 複数形	試験解答、試験返却、 演習	S.26, 29の整理 次回提出用課題準備 13
16	[Lektion 5] 買い物に行く(2) 人称代名詞の格変化・3格と4格の語順	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.27, 29の整理 次回提出用課題準備 14
17	[Lektion 5] 買い物に行く(2) 会話と作文・会話表現3(数字と買い物)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.28, 29, 42, 43, 78の整理 次回提出用課題準備 15
18	[Lektion 6] 週末の予定を尋ねる 2格・3格・4格支配の前置詞	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.30, 33の整理 次回提出用課題準備 16
19	[Lektion 6] 週末の予定を尋ねる 3格・4格支配の前置詞・定冠詞との融合形	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.31, 33の整理 次回提出用課題準備 17
20	[Lektion 6] 週末の予定を尋ねる 会話と作文・会話表現4(予定)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.32, 33, 78, 79の整理 次回提出用課題準備 18
21	[Lektion 7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化(無冠詞型)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.34, 37の整理 次回提出用課題準備 19
22	[Lektion 7] 趣味について尋ねる 形容詞の格変化(定冠詞・不定冠詞)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.35, 37の整理 次回提出用課題準備 20
23	[Lektion 7] 趣味について尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.36, 37の整理 次回提出用課題準備 21
24	[Lektion 8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞と現在人称変化	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.44, 47の整理 次回提出用課題準備 22
25	[Lektion 8] 昼食を食べに行く 話法の助動詞の構文(語順2)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.45, 47の整理 次回提出用課題準備 23
26	[Lektion 8] 昼食を食べに行く 会話と作文・会話表現5(食事)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.46, 47, 80の整理 試験準備(S.26-37, 44-47)
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Lektion 5-8の総括・試験解答 時刻と日付の表現	試験解答、試験返却、 演習	S.40, 42, 43, 78, 79の整理 次回提出用課題準備 24
28	道案内の表現	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.41, 79及び配布物の整理

テキスト	上野成利・本田雅也『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] (CD付)』(白水社)
参考書	橋本政義・橋本淑恵・Heike Pinnau『CD付き 使ってみよう! ドイツ語 文法+4技能のトレーニング』(三修社)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが滞るので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	GMN102: ドイツ語Ⅱ				担当教員	工藤 花野		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	基礎ドイツ語、基礎ドイツ語文法の完成							
授業の概要	ドイツ語Ⅰに引き続き、「読む・書く・聞く・話す」力の基礎となる文法を中心に、丁寧に時間をかけて進めていきます。対話文やドリルを用いた「読む・書く」練習や、ペアワーク等による会話形式の「聞く・話す」練習を通じて、バランスのとれた基礎力を鍛えながら、より複雑な表現方法を習得します。							
達成目標	ドイツ語Ⅰで習得した語彙力・文法力を再確認しながら、さらに学習を進めて、ドイツ語の「書く・読む・聞く・話す」力の総合的な訓練により、ドイツ語の発音・基礎的文法力。基礎的表現力の完成を目指す。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ語の読み方と発音がきちんとできる。 ・文の構造と動詞の仕組み・名詞の格の働きを理解する。 ・より複雑な構文の文章を理解し、作文することができる。 ・進出語彙を身につける。 							
評価方法	授業参加の積極性(10%)、授業毎の課題提出(10%)、授業内試験(40%)、定期試験(40%)							
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参加(個人やペア等での発表により、表現・発音・聞き取る力を確認する) ・課題提出(授業毎の短い課題提出により、授業内容・文法事項・進出語彙を確認する) ・試験(授業内試験と定期試験により、文法・読み・書きの力を確認する) 							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion1-4] 動詞の活用と語順・冠詞と冠詞類の格変化	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	テキスト(以下略) S.10-25の整理、次回提出用課題準備1
2	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion5-6] 複数形・人称代名詞の格・前置詞の格支配	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.26-33の整理 次回提出用課題準備2
3	ドイツ語Ⅰを振り返る [Lektion7-8] 形容詞・話法の助動詞と未来形の構文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.34-47の整理 次回提出用課題準備3
4	[Lektion 9] 駅の窓口で尋ねる 分離動詞・非分離動詞と分離動詞の構文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.48, 51の整理 次回提出用課題準備4
5	[Lektion 9] 駅の窓口で尋ねる 従属接続詞と複文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.49, 51の整理 次回提出用課題準備5
6	[Lektion 9] 駅の窓口で尋ねる 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.50, 51の整理 次回提出用課題準備6
7	[Lektion 10] 休暇の計画を尋ねる zu不定詞	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.52, 55の整理 次回提出用課題準備7
8	[Lektion 10] 休暇の計画を尋ねる 再帰代名詞・再帰動詞	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.53, 55の整理 次回提出用課題準備8
9	[Lektion 10] 休暇の計画を尋ねる 会話と作文・会話表現6(計画)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.54, 55, 80の整理 次回提出用課題準備9
10	[Lektion 11] 旅の体験を語る(1) 動詞の3基本形	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.56, 59の整理 次回提出用課題準備10

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	[Lektion 11] 旅の体験を語る(1) 動詞の過去人称変化・分離動詞の過去形	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.57, 59の整理 次回提出用課題準備 11
12	[Lektion 11] 旅の体験を語る(1) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.58, 59の整理 次回提出用課題準備 12
13	[Lektion 12] 旅の体験を語る(2) 現在完了形・他動詞と自動詞	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.60, 63の整理 次回提出用課題準備 13
14	[Lektion 12] 旅の体験を語る(2) 非人称表現	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.61, 63の整理 次回提出用課題準備 14
15	[Lektion 12] 旅の体験を語る(2) 会話と作文・会話表現7(体験)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.62, 63, 81の整理 試験準備(S.48-63, 80, 81)
16	Lektion 9-12の総括・質疑応答(30分) 授業内試験(60分)	質疑応答 試験	S.48-63, 80, 81の整理
17	Lektion 9-12の総括・試験解答 [Lektion 13] 意見を交換する(1) 受動態	試験解答、試験返却、 演習	S.64, 67の整理 次回提出用課題準備 15
18	[Lektion 13] 意見を交換する(1) 形容詞と副詞の比較級	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.65, 67の整理 次回提出用課題準備 16
19	[Lektion 13] 意見を交換する(1) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.66, 67の整理 次回提出用課題準備 17
20	[Lektion 14] 意見を交換する(2) 定関係代名詞・関係文の構文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.68, 71の整理 次回提出用課題準備 18
21	[Lektion 14] 意見を交換する(2) 不定関係代名詞・関係副詞	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.69, 71の整理 次回提出用課題準備 19
22	[Lektion 14] 意見を交換する(2) 会話と作文	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.70, 71の整理 次回提出用課題準備 20
23	[Lektion 15] 別れと再会の約束 接続法I式の形態と用法	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.72, 75の整理 次回提出用課題準備 21
24	[Lektion 15] 別れと再会の約束 接続法II式の形態と用法	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.73, 75の整理 次回提出用課題準備 22
25	[Lektion 15] 別れと再会の約束 会話と作文・会話表現8(意見交換)	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.74, 75, 81の整理 次回提出用課題準備 23
26	受動態・関係文・接続法の練習問題	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	S.64-75, 81・配布物の整理 試験準備(S.64-75, 81)
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	Lektion 13-15の総括・試験解答 受動文・関係文・接続法の練習問題	試験解答、試験返却、 演習	配布物の整理 次回提出用課題準備 24
28	再帰動詞の練習問題	演習(発音、ペアワーク、ドリル、作文)	配布物の整理

テキスト	上野成利・本田雅也『パノラマ初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] (CD付)』(白水社)
参考書	橋本政義・橋本淑恵・Heike Pinnau『CD付き 使ってみよう! ドイツ語 文法+4技能のトレーニング』(三修社)
履修条件、 前提科目	ドイツ語Iを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。(P.61を参照のこと)
その他 特記事項	できるだけ余裕をもって進行に努めるが、欠席が続くと習得度が下がる上、ペアワークやグループワークが滞るので毎回の出席が望ましい。また、辞書の持参を推奨する。

科目名	FRN101: フランス語 I				担当教員	塩谷 優衣		
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	フランス語入門							
授業の概要	フランス語入門者を対象とする。フランス語の発音・つづり・動詞活用等の基本要素と基礎的な文法をテキストに沿って概観し、口、手、耳を動かしながら学んだことを定着させる。授業では主に反復練習を行い、そこで学んだことを次の回に行う小テストで確認する。							
達成目標	本科目は、学生がフランス語の発音・つづり・動詞活用等の基本要素と基礎的な文法の概要を理解し、それらを、反復練習を通して習得することで、より難度の高いフランス語を理解するための基礎力を養うことを目標とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフランス語の単語、文を正しく発音することができる。 ・簡単なフランス語の単語、文を正しく綴ることができる。 ・基本的な動詞を正しく活用させることができる。 ・簡単なフランス語の文を暗記し、いつでも使うことができる。 							
評価方法	1) 授業への積極参加 30%、2) 授業内試験 20%、3) 定期試験 30%、4) 小テスト 20%							
評価基準	1) 授業への積極参加：口頭ドリル・ペアワーク・課題等の反復練習に参加しているか。2) 授業内試験、及び 3) 定期試験：試験実施回までの授業に基づく内容を読み、聞き、書くことができるか。4) 小テスト：前の回の授業に基づく内容を読み、聞き、書くことができるか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業概要の説明 Leçon 0 発音とつづり、アルファベ	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	Leçon0 練習問題の復習
2	復習小テスト Leçon 1 強勢形と前置詞 Leçon 2 疑問と否定	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon1、2 練習問題の復習
3	復習小テスト Leçon 3 疑問詞 où	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon3 練習問題の復習
4	復習小テスト Leçon 4 être と形容詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon4 練習問題の復習
5	復習小テスト Leçon 5 名詞の指示と所有	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon5 練習問題の復習
6	復習小テスト Leçon 6 定冠詞と aimer	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon6 練習問題の復習
7	復習小テスト Leçon 7 avoir と不定冠詞・部分冠詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon7 練習問題の復習
8	復習小テスト Leçon 8 er 動詞 (1)	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon8 練習問題の復習
9	復習小テスト Leçon 9 er 動詞 (2) 注意すべき活用	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon9 練習問題の復習
10	復習小テスト Leçon 10 ir 動詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon10 練習問題の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	復習小テスト Leçon 11 re 動詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon11 練習問題の復習
12	復習小テスト Leçon 12 oir 動詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon12 練習問題の復習
13	復習小テスト Leçon 0～Leçon 12 まとめと復習	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	総合的復習
14	授業内試験 Leçon 13 中性代名詞 le	質疑応答、試験 講義	小テスト・Leçon13 中性代名詞 le の練習問題の復習
15	試験の返却および解説 Leçon 13 中性代名詞 y, en	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	試験・Leçon13 中性代名詞 y, en の練習問題の復習
16	復習小テスト Leçon 14 人称代名詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon14 練習問題の復習
17	復習小テスト Leçon 15 比較	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon15 練習問題の復習
18	復習小テスト Leçon 16 ①代名動詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon16 代名動詞の練習問題の復習
19	復習小テスト Leçon 16 ②命令法	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon16 命令法の練習問題の復習
20	復習小テスト Leçon 17 関係代名詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon17 練習問題の復習
21	復習小テスト Leçon 18 ①強調構文・倒置	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon18 強調構文・倒置の練習問題の復習
22	復習小テスト Leçon 18 ②疑問代名詞・疑問形容詞・疑問副詞	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon18 疑問詞の練習問題の復習
23	復習小テスト Leçon 19 半過去	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon19 練習問題の復習
24	復習小テスト Leçon 20 複合過去	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon20 練習問題の復習
25	復習小テスト Leçon 21 単純未来	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	小テスト・Leçon21 練習問題の復習
26	復習小テスト Leçon 13～Leçon 21 まとめと復習	練習(口頭ドリル、ペアワーク等) 質疑応答	総合的復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	試験の返却および解説 Leçon 22 条件法、Leçon 23 接続法	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	試験・Leçon22、23 該当箇所の練習問題の復習
28	復習小テスト、解説 まとめ	講義、練習(口頭ドリル、ペアワーク等)	総合的復習

テキスト	白石嘉治、西川葉澄、谷口清彦『トラントラン：初級フランス語・かんたんなことをコツコツやろう』(朝日出版社)
参考書	田島宏編『コレクションフランス語①入門』『コレクションフランス語②初級』(白水社)
履修条件、前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他特記事項	授業はテキストに沿って進めるが、必要に応じて映像・音声資料を用いる。

科目名	FRN102: フランス語Ⅱ				担当教員	塩谷 優衣		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	フランス語初級、フランス語検定5級							
授業の概要	「フランス語Ⅰ」履修者を主な対象とする。「フランス語Ⅰ」で学んだ直説法現在を用いる表現に加え、命令法、非人称表現、異なる時制を用いた表現をテキストに沿って学び、読む・聞く・話す・書く練習を通して、学んだことを定着させる。学んだことは次の回の小テストで確認する。							
達成目標	本科目は、学生がフランス語の基礎的な文法を理解し、読む・聞く・話す・書く力を、初歩的な日常表現に相当するレベルで習得することを目標とする。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なフランス語の単語、文を正しく発音することができる。 ・簡単なフランス語の文、会話を聞き取り、理解することができる。 ・簡単なフランス語の文、会話を暗記し、いつでも使うことができる。 ・簡単なフランス語を用いて自分や周囲の人・ものについて短い作文をすることができる。 							
評価方法	1) 授業への積極参加 30%、2) 授業内試験 20%、3) 定期試験 30%、4) 小テスト 20%							
評価基準	1) 授業への積極参加：記述・ペアワーク・課題等を通じた練習に参加しているか。2) 授業内試験、及び3) 定期試験：試験実施回までの授業に基づく内容を読み、聞き、書くことができるか。4) 小テスト：前の回の授業に基づく内容を読み、聞き、書くことができるか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	授業概要の説明 フランス語Ⅰの復習 動詞 être と形容詞の性数一致	講義、練習(記述、ペアワーク等)	Leçon2 該当箇所の復習
2	復習小テスト フランス語Ⅰの復習 動詞 avoir と不定冠詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon3 該当箇所の復習
3	復習小テスト フランス語Ⅰの復習 er 動詞と定冠詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon4 該当箇所の復習
4	復習小テスト フランス語Ⅰの復習 疑問文の作り方	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon4 該当箇所の復習
5	復習小テスト フランス語Ⅰの復習 指示形容詞、所有形容詞、人称代名詞の強勢形	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon5 該当箇所の復習
6	復習小テスト Leçon 7 ①疑問代名詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon7 疑問代名詞の練習問題の復習
7	Leçon 7 ②疑問副詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon7 疑問副詞の練習問題の復習
8	復習小テスト Leçon 8 近接未来・近接過去	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon8 の練習問題の復習
9	復習小テスト Leçon 9 ①非人称動詞と非人称構文	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon9 非人称表現の練習問題の復習
10	復習小テスト Leçon 9 ②疑問形容詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon9 疑問形容詞の練習問題の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	復習小テスト Leçon 10 ①部分冠詞、数量の表現	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon10 部分冠詞、数量の表現の復習
12	Leçon 10 ②中性代名詞 en	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon10 の中性代名詞 en の練習問題の復習
13	復習小テスト Leçon 11 ①補語人称代名詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon11 補語人称代名詞の練習問題の復習
14	復習小テスト Leçon 7～Leçon 11 まとめと復習	講義、練習(記述、ペアワーク等)	総合的復習
15	授業内試験 Leçon 11 ②補語人称代名詞(補足)	質疑応答、試験、講義	Leçon11 補語人称代名詞の練習問題の復習
16	試験の返却および解説	講義	試験の復習
17	復習小テスト Leçon 12 ①代名動詞	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon12 代名動詞の練習問題の復習
18	復習小テスト Leçon 12 ②Texte 読解	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon12 Texte の復習
19	復習小テスト Leçon 13 ①命令、義務を表す表現	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon13 命令、義務を表す表現の復習
20	復習小テスト Leçon 13 ②命令法	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon13 命令法の練習問題の復習
21	復習小テスト Leçon 14 単純未来	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon14 の練習問題の復習
22	復習小テスト Leçon 15 ①複合過去 助動詞 avoir	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon15 助動詞 avoir と複合過去の復習
23	Leçon 15 ②複合過去 助動詞 être	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon15 助動詞 être と複合過去の復習
24	復習小テスト Leçon 16 ①半過去	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon16 半過去の練習問題の復習
25	Leçon 16 ②大過去	講義、練習(記述、ペアワーク等)	小テスト・Leçon16 大過去の練習問題の復習
26	復習小テスト Leçon 12～Leçon 16 まとめと復習	講義、練習(記述、ペアワーク等) 質疑応答	総合的復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	試験の返却および解説	講義	試験の復習
28	映画鑑賞	リアクションペーパー	総合的復習

テキスト	藤田裕二、藤田知子、Sylvie GILLET 『新・東京ーパリ、初飛行 [新装改訂二版]』(駿河台出版社)
参考書	田島宏編 『コレクションフランス語②初級』『コレクションフランス語③文法』(白水社)
履修条件、前提科目	フランス語 I を履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。(P.61 を参照のこと)
その他特記事項	授業はテキストに沿って進めるが、必要に応じてプリントを配布する。

科目名	SPN101: スペイン語 I					担当教員	新津 吉太郎	
開講期	春/秋	開講時限	月木1限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、ラテンアメリカ							
授業の概要	スペイン語(全世界で4億人以上の話者)の基礎を学ぶ。スペイン語の構造(文法)を理解し、「読み」「書き」する能力を身につける。同時に、コミュニケーション能力(「聞く」「話す」)も養う。言語の習得とともに、スペイン語圏の文化・習慣について学ぶ。							
達成目標	スペイン語の学習を通して、その運用力を養うとともに、英語や日本語の表現を見つめ直し、それらの運用能力の向上を目指す。スペイン語やスペイン語圏への理解を深めることで、異なる文化・習慣をもつ人びとと、どのように関係を築いていくのかを考えるきっかけにする。							
到達目標	スペイン語を習得するために非常に重要である「動詞の活用」の仕組み・方法をしっかりと理解する。平易なスペイン語を「読み」「書き」することができるようになる。挨拶や簡単な日常会話を「聞いて」理解し、ゆっくりではあるが「話す」ことができるようになる。スペイン語で簡潔な「自己紹介」を口頭で、そして文章で行えるようになる。							
評価方法	①定期試験:50%、②授業への積極参加:25%、③授業外の課題:25%							
評価基準	①定期試験:授業内容を理解し、スペイン語の運用能力が身についているかを評価する。 ②授業への積極参加:正解・不正解を問わず、しっかりと考えて回答しているか。また、質問や意見、グループ・ワークへの積極参加など「主体的に学ぶ姿勢」も評価する。 ③授業外の課題:授業内容を理解したうえで、課題を確実にこなしているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	スペイン語とスペイン語圏の紹介	講義、質疑応答	シラバスの確認
2	挨拶、アルファベット、発音	講義、発音練習、グループワーク	シラバスの確認
3	発音、アクセント、挨拶	講義、発音練習、グループワーク	発音の復習
4	主格人称代名詞、動詞 ser の活用	講義、練習問題	発音・アクセントの復習
5	動詞 ser の用法	講義、練習問題、グループワーク	動詞 ser の活用の復習
6	名詞・形容詞・冠詞の「性」と「数」	講義、練習問題	動詞 ser の活用・用法の復習
7	動詞 estar、hay	講義、練習問題、グループワーク	スペイン語の「性」と「数」の復習
8	動詞 ser・estar・hay の使い分け	講義、練習問題	動詞 ser、estar、hay の復習
9	時刻、曜日、日付、基数	講義、練習問題、グループワーク	動詞 ser、estar、hay の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	規則的な活用をする動詞の「活用」	講義、練習問題	第9回までの授業内容の復習
11	規則的な活用をする動詞の「用法」	講義、練習問題	規則的な活用をする動詞の「活用」の復習
12	不規則な活用をする動詞の「活用」	講義、練習問題	規則的な活用をする動詞の「活用・用法」の復習
13	不規則な活用をする動詞の「用法」	講義、練習問題	不規則な活用をする動詞の「活用」の復習
14	さまざまな動詞を用いた表現(1)	講義、練習問題、グループワーク	動詞の「活用・用法」の復習
15	さまざまな動詞を用いた表現(2)	講義、練習問題、グループワーク	動詞の「活用・用法」の復習
16	目的語の代名詞	講義、練習問題	第15回までの授業内容の復習
17	gustar型動詞の「考え方」	講義、練習問題	目的語の代名詞の復習
18	gustar型動詞の用法、現在進行形	講義、練習問題、グループワーク	gustar型動詞の「考え方」の復習
19	過去形(点過去)の動詞の活用	講義、練習問題	第18回までの授業内容の復習
20	過去形(点過去)の動詞の用法	講義、練習問題	過去形(点過去)の動詞の活用の復習
21	疑問詞、過去形(点過去)の動詞を用いた表現	講義、練習問題、グループワーク	過去形(点過去)の動詞の活用・用法の復習
22	再帰動詞の用法	講義、練習問題	第21回までの授業内容の復習
23	再帰動詞を用いた表現	講義、練習問題、グループワーク	再帰動詞の用法の復習
24	過去形(線過去)の動詞の活用・用法	講義、練習問題	点過去の動詞の活用・用法の復習
25	点過去と線過去の使い分け(1)	講義、練習問題	点過去と線過去の動詞の活用・用法の復習
26	点過去と線過去の使い分け(2)	講義、練習問題	第25回までの授業内容の復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	スペイン語圏の文化・習慣	講義、質疑応答	スペイン語圏についての復習
28	定期試験の返却と解説、全体のまとめ	返却、講義、質疑応答	第27回までの授業内容の復習

テキスト	京都烏丸スペイン語教室『世界につながるスペイン語 改訂版』(朝日出版社)
参考書	高垣敏博ほか『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)
履修条件、前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。正解・不正解は問わないので、授業ではしっかりと考えて回答すること。辞書を購入し、毎回持参することを推奨する。

科目名	SPN102: スペイン語Ⅱ				担当教員	新津 吉太郎		
開講期	春	開講時限	月木2限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、スペイン語、スペイン、ラテンアメリカ							
授業の概要	「スペイン語Ⅰ」の復習をしながら、スペイン語の習得を進めていく。スペイン語の基本的な文法事項を一通り習得するため、「直説法」の運用能力をさらに高め、「接続法」の表現も理解する。「接続法」の表現を理解することで、より表現豊かなスペイン語の運用能力を身につける。言語の習得とともに、スペイン語圏の文化・習慣について理解を深める。							
達成目標	スペイン語の学習を通して、その運用力を養うとともに、英語や日本語の表現を見つめ直し、それらの運用能力の向上を目指す。スペイン語やスペイン語圏への理解を深めることで、異なる文化・習慣をもつ人びとと、どのように関係を築いていくのかを考えるきっかけにする。「直説法」の更なる理解と「接続法」の習得を通して、より実用的なスペイン語能力を身につける。							
到達目標	スペイン語を習得するために非常に重要である「動詞の活用」の仕組み・方法の理解を深め、運用能力を高める。「直説法」とともにスペイン語の「接続法」の表現を理解することで、「読む・聞く」能力を向上させ、自分の意思や感情をより表現豊かに「書く・話す」ことができるようになる。具体的には、平易な内容の手紙・日記や日常会話などを正確に理解し、日常の出来事や自分の意見・感情・価値判断などを、適切なスペイン語を用いて表現できるようになる。							
評価方法	①定期試験：50%、②授業への積極参加：25%、③授業外の課題：25%							
評価基準	①定期試験：授業内容を理解し、スペイン語の運用能力が身につけているかを評価する。 ②授業への積極参加：正解・不正解を問わず、しっかりと考えて回答しているか。また、質問や意見、グループ・ワークへの積極参加など「主体的に学ぶ姿勢」も評価する。 ③授業外の課題：授業内容を理解したうえで、課題を確実にこなしているかを評価する。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	現在形の動詞を用いた表現の復習	講義、質疑応答、練習問題	シラバスの確認
2	再帰動詞の復習	講義、練習問題	現在形の動詞の活用・用法の復習
3	過去形(点過去)の動詞の活用	講義、練習問題	第2回までの授業内容の復習
4	過去形(点過去)の動詞の用法	講義、練習問題	過去形(点過去)の動詞の活用の復習
5	過去形(線過去)の動詞の活用・用法	講義、練習問題	点過去の動詞の活用・用法の復習
6	点過去と線過去の使い分け	講義、練習問題	点過去と線過去の動詞の活用・用法の復習
7	過去形(点過去と線過去)を用いた、さまざまな表現(1)	講義、練習問題、グループワーク	点過去と線過去の動詞の活用・用法の復習
8	過去形(点過去と線過去)を用いた、さまざまな表現(2)	講義、練習問題、グループワーク	点過去と線過去の動詞の活用・用法の復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	現在完了、過去分詞	講義、練習問題、グループワーク	第8回までの授業内容の復習
10	受身表現	講義、練習問題	過去分詞の復習
11	過去完了	講義、練習問題、グループワーク	現在完了の復習
12	比較表現	講義、練習問題	第11回までの授業内容の復習
13	未来形の動詞の活用・用法	講義、練習問題、グループワーク	第12回までの講義内容の復習
14	過去未来形の動詞の活用・用法	講義、練習問題	未来形の動詞の活用・用法の復習
15	接続法現在形の動詞の活用と「考え方」	講義、練習問題	現在形(直説法)の動詞の活用・用法の復習
16	接続法現在形の用法(1)	講義、練習問題	接続法現在形の動詞の活用と「考え方」の復習
17	接続法現在形の用法(2)	講義、練習問題	接続法現在形の動詞の用法の復習
18	接続法現在形の用法(3)	講義、練習問題、グループワーク	接続法現在形の動詞の用法の復習
19	命令表現(1)	講義、練習問題、グループワーク	直説法と接続法の「現在形の動詞の活用」の復習
20	命令表現(2)	講義、練習問題、グループワーク	命令表現の復習
21	接続法過去形の動詞の活用と用法	講義、練習問題	直説法点過去の動詞の活用の復習
22	接続法過去形の用法、条件文	講義、練習問題	接続法過去形の動詞の活用の復習
23	会話表現(1)	講義、グループワーク	第22回までの授業内容の復習
24	読解と作文練習(1)	講義、練習問題	第23回までの授業内容の復習
25	会話表現(2)	講義、グループワーク	第24回までの授業内容の復習
26	読解と作文練習(2)	講義、練習問題	第25回までの授業内容の復習
定期試験を実施する Final Exam will be held			
27	スペイン語圏の文化・習慣	講義、質疑応答	スペイン語圏についての復習
28	定期試験の返却と解説、全体のまとめ	返却、講義、質疑応答	第27回までの授業内容の復習

テキスト	京都烏丸スペイン語教室『世界につながるスペイン語 改訂版』(朝日出版社)
参考書	高垣敏博ほか『ポケットプログレッシブ西和・和西辞典』(小学館)
履修条件、前提科目	スペイン語Iを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。(P.61を参照のこと)
その他特記事項	継続的に復習をすることが望ましい。正解・不正解は問わないので、授業ではしっかりと考えて回答すること。辞書を購入し、毎回持参することを推奨する。

科目名	CHN101: 中国語 I				担当教員	廣重 聖佐子		
開講期	春/秋	開講時限	月木3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、中国語							
授業の概要	今年度は教科書の前半部分を学習する。各課は2回の授業で1課を終了する。1回目の授業では、単語と文法解説の後、宿題プリントで練習問題を提出する。2回目の授業では、本文の音読練習と音読テストをする。授業では、練習問題や音読練習を中心に繰り返し練習することで、学習の定着をはかる。また同時に中華圏の文化や習慣も学んでいく。							
達成目標	中国語学習に必要な不可欠なピンイン、入門初級程度の基礎的な文法事項を反復練習によって習得する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の音読ができる。(ピンインが読める) ・教科書本文の基本的な単語や文法事項が理解できる。(和訳ができる) ・練習問題や宿題プリント等で簡単な和文中訳ができる。 							
評価方法	①授業内課題：授業内提出物、宿題プリント (20%) ②音読テスト：各課終了時と28回目 (10%) ③授業内試験：2回の筆記試験 (70%)							
評価基準	①授業内課題：各授業終了時に提出。宿題プリントの提出が遅れた場合は減点。 ②音読テスト：28回目に課題の音読テストをするが、ピンインが読めない場合は減点。 ③授業内試験：14回目と27回目に実施。学習した単語と文法事項が理解できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	第1課 発音の基礎(1) 短母音	発音練習	第1課確認
2	第2課 発音の基礎(2) 子音	発音練習	第2課確認
3	第3課 発音の基礎(3) 複母音	発音練習	第3課確認
4	第4課 発音の基礎(4) nとng 第5課 発音の基礎(5) 声調変化、挨拶	発音練習	第4課と第5課確認
5	第6課 人称代名詞、動詞「是」、名前のたずね方、言い方の解説	単語と文法解説 練習問題	第6課単語確認 宿題プリント
6	第6課 人称代名詞、動詞「是」、名前のたずね方、言い方の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
7	第7課 動詞述語文、副詞「也」、文末の語気助詞「吧」の解説	単語と文法解説 練習問題	第7課単語確認 宿題プリント
8	第7課 動詞述語文、副詞「也」、文末の語気助詞「吧」の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
9	第8課 指示代詞、形容詞述語文の解説	単語と文法解説 練習問題	第8課単語確認 宿題プリント
10	第8課 指示代詞、形容詞述語文の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
11	第9課 数字の読み方と書き方、量詞、反復疑問文の解説	単語と文法解説 練習問題	第9課単語確認 宿題プリント
12	第9課 数字の読み方と書き方、量詞、反復疑問文の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
13	前半の復習	復習	第6課から9課までの復習
14	授業内試験① 試験の解説	筆記試験 講評	第6課から9課までの復習
15	第10課 名詞の後の「呢」、疑問詞を使った疑問文の解説	単語と文法解説 練習問題	第10課単語確認 宿題プリント
16	第10課 名詞の後の「呢」、疑問詞を使った疑問文の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
17	第11課 方位詞、現存を表す「在」の解説	単語と文法解説 練習問題	第11課単語確認 宿題プリント
18	第11課 方位詞、現存を表す「在」の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
19	第12課 存在を表す「有」、所在を表す「有」の解説	単語と文法解説 練習問題	第12課単語確認 宿題プリント
20	第12課 存在を表す「有」、所在を表す「有」の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
21	第13課 年月日の言い方、曜日の言い方、時刻の言い方の解説	単語と文法解説 練習問題	第13課単語確認 宿題プリント
22	第13課 年月日の言い方、曜日の言い方、時刻の言い方の解説	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
23	第14課 前置詞「从」「到」「在」「给」「离」用法解説	単語と文法解説 練習問題	第14課単語確認 宿題プリント
24	第14課 前置詞「从」「到」「在」「给」「离」用法練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
25	第15課 疑問詞「多」、年齢の尋ね方、比較の表現の解説	単語と文法解説 練習問題	第15課単語確認 宿題プリント
26	第15課 疑問詞「多」、年齢の尋ね方、比較の表現の練習	音読練習 音読テスト	音読練習 復習プリント
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	授業内試験② 試験の解説	筆記試験 講評	第10課から15課までの復習
28	授業内試験の返却と講評 音読テスト	講評 音読テスト	音読テストの練習

テキスト	新谷秀明・王宇南『読み書き話す 中国語の基本』(朝日出版社)
参考書	守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』(東方書店)
履修条件、 前提科目	初学者、初級者向けであり、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。
その他 特記事項	20分以上の遅刻は欠席とする。 就職活動で欠席する者は事前に連絡すること。

科目名	CHN102: 中国語 II				担当教員	廣重 聖佐子		
開講期	春	開講時限	月木4限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	第二外国語、中国語							
授業の概要	前年度使用した教科書の後半部分を学習する。各課は2回の授業で1課を終了する。1回目の授業では単語と文法解説の後、各自教科書本文の文法事項をチェックし、和訳を試みる。その後宿題ドリルを提出する。2回目の授業で音読練習、音読テスト、練習問題で学習定着をはかる。							
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 中国語の初級課程を完了するとともに、学習した構文を自分で分析し、和訳や中訳ができるようにする。 音読練習と初級課程の成果として、中国語で自己紹介ができるようにする。 							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 本文の音読ができる。 文法事項が理解でき、和訳や練習問題ができる。 例文等を用いて中国語で表現できる。 							
評価方法	①授業課題：授業内での提出物と宿題プリント（20%） ②音読テスト：各課終了時に行う（10%） ③自己紹介：7～10センテンス以上で暗唱する（10%） ④授業内試験：2回の筆記試験（60%）							
評価基準	①授業課題：基本的な文法事項の確認。宿題ドリルの提出が遅れた場合は減点。 ②音読テスト：授業中に各課終了時に行う。 ③自己紹介：25回目の授業までに原稿を提出すること。原稿返却後、28回目の授業時にテストをする。原稿を見ながらの場合は減点。 ④授業内試験：13回目と27回目に実施。学習した単語や文法事項が理解できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回（100分）の授業のための授業外学修（予習・復習）時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修（予習・復習）
1	第17課 年齢の尋ね方、「ちょっと～する」の解説	単語と文法解説 本文の解説	17課の単語と文法の確認 宿題ドリル
2	第17課 年齢の尋ね方、「ちょっと～する」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
3	第18課 値段の言い方、「100」以上の数え方の解説、疑問詞「多少」の解説	単語と文法解説 本文の解説	18課の単語度と文法の確認 宿題ドリル
4	第18課 値段の言い方、「100」以上の数え方の解説、疑問詞「多少」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
5	第19課 目的語を2つとる動詞、文末の「了」(2)、介詞「給」の解説	単語と文法解説 本文の解説	19課の単語と文法の確認 宿題ドリル
6	第19課 目的語を2つとる動詞、文末の「了」(2)、介詞「給」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
7	第20課 介詞「在」、「比」、語気助詞「的」の解説	単語と文法解説 本文の解説	20課の単語と文法の確認 宿題ドリル
8	第20課 介詞「在」、「比」、語気助詞「的」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
9	第21課 時間量の表し方、介詞「离」と「从」の解説	単語と文法解説 本文の解説	21課の単語と文法の確認 宿題ドリル
10	第21課 時間量の表し方、介詞「离」と「从」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
11	第22課 助動詞「会」「能」「可以」の解説	単語と文法解説 本文の解説	22課の単語と文法の確認 宿題ドリル
12	第22課 助動詞「会」「能」「可以」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
13	授業内試験① 試験の解説	筆記試験 講評	17課から22課の復習
14	第23課 過去の経験、動詞句を目的語にとれる動詞の解説	単語と文法解説 本文の解説	23課の単語と文法の確認 宿題ドリル
15	第23課 過去の経験、動詞句を目的語にとれる動詞の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
16	第24課 選択文の解説と練習	単語と文法、本文解説 音読練習とテスト	24課の単語と文法の確認 宿題ドリル、音読練習
17	第25課 「～しているところ」「～しに行く」「～しに来る」の解説と練習	単語と文法、本文解説 音読練習とテスト	25課の単語と文法の確認 宿題ドリル、音読練習
18	第26課 「了」の用法の解説	単語と文法解説 本文の解説	26課の単語と文法の確認 宿題ドリル、音読練習
19	第26課 「了」の用法の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
20	第27課 動詞+「的」+名詞、「是～的」の解説と練習	単語と文法、本文解説 音読練習とテスト	27課の単語と文法の確認 宿題ドリル、音読練習
21	第28課 結果補語、可能補語、状態補語の解説	単語と文法解説 本文の解説	28課の単語と文法の確認 宿題ドリル
22	第28課 結果補語、可能補語、状態補語の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
23	第29課 使役文、受身文の解説	単語と文法解説 本文の解説	29課の単語と文法の確認 宿題ドリル
24	第29課 使役文、受身文の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
25	第30課 助動詞「要」、介詞「把」の解説	単語と文法解説 本文の解説	30課の単語と文法の確認 宿題ドリル
26	第30課 助動詞「要」、介詞「把」の練習	音読練習とテスト 宿題ドリルの解説	音読練習 宿題ドリルの復習
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	授業内試験② 試験の解説	筆記試験 講評	23課から30課までの復習
28	授業内試験の返却と講評 自己紹介	講評 自己紹介のテスト	自己紹介の練習

テキスト	小川郁夫『初級中国語 教科書+ドリル』(白帝社)
参考書	小川郁夫『問題を解いて覚える中国語1』(白帝社)
履修条件、 前提科目	中国語Iを履修済みであるか、またはそれと同等のレベルであること。ただし、この言語を母語とする学生、および日常会話ができるレベルに達している学生の履修は原則、不可とする。(P.61を参照のこと)
その他 特記事項	20分以上の遅刻は欠席とする。 就職活動で欠席する者は事前に届け出ること。

科目名	JPN250: 日本語表現法					担当教員	河北 祐子	
開講期	春/秋	開講時限	火金3限	研究室	4号館2階 講師控室	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	4	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	構成、事実・意見・感情、書き言葉と話し言葉							
授業の概要	論文の基本的な構造を知り、論文にふさわしい語彙、表現、文章を学ぶ。序論、本論、結びの3つの構造に従って、実際の書き方を体験しながら論文を完成させていく。中間発表、学生間および教師によるフィードバックなどから、客観的に自分の表現について振り返り、学びを進める。							
達成目標	自分の日本語を意識的に振り返り、話し言葉と書き言葉の違い、ねじれ文への気づきと訂正ができるようになる。客観的な文章で説得力ある論文を書くために、事実と意見を的確な表現で書き分け、構成された論文が書けるようになる。							
到達目標	学生は、学期末に論文にふさわしい表現を用い、構成がしっかりした2000字程度の説得力ある小論文が書けるようになる。パワーポイントを用いた中間プレゼンテーションを行い、他者に自分の考えを説明する口頭発表の仕方を身につける。							
評価方法	① 授業課題：課題が出された次回の授業までに提出する。 20% ② 中間発表：パワーポイントを用いた5分程度の口頭発表 20% ③ 小論文：ワードで作成し、学期末の指定期間内にLOYOLAに提出 60%							
評価基準	① 授業課題：指示されたポイントを守っているか。提出期限を守っているか。欠席した場合は次回までに提出。 ② 中間発表：授業で学んだ論文作成のポイントを守っているか。説得力ある発表だったか。 ③ 小論文：授業で学んだ論文構成に従っているか。論文にふさわしい表現をしているか。信頼できるリソースを用い、他者の意見を区別し、自身の考察ができています。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	〔基礎編〕 よく使われる文の形、語と表現	講義、質疑応答 ペアワーク	pp.1-8を読んでくる。
2	引用、要約、句読点 実際の論文で確かめる。	講義、質疑応答 グループワーク	pp.8-15を読んでくる。 課題準備
3	表記規則、まとめの練習	講義、質疑応答 グループワーク	pp.16-22を読んでくる。 課題準備
4	〔論文編〕論文とは、論文の構成 実際の論文で確かめる。	講義、質疑応答 グループワーク	pp.24-28を読んでくる。 課題準備
5	構成の作り方、本論のまとめ方	講義、質疑応答 グループワーク	pp.29-42を読んでくる。 課題準備
6	書いてみよう①、3種類の文(FOA) 書いてみよう②	講義、質疑応答 グループワーク	pp.43-47を読んでくる。 課題準備
7	論文のモデル 専門分野によるスタイルの違いを見る。	講義、質疑応答 グループワーク	pp.48-50を読んでくる。 課題準備
8	論文のモデル 卒業論文のサンプルを見る。	講義、質疑応答 グループワーク	pp.48-50を読んでくる。 課題準備
9	〔論文編Ⅱ序論〕序論の役割、背景説明：事物の説明、先行研究の紹介等	講義、質疑応答 ペアワーク	pp.51-63を読んでくる。 課題準備

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	問題提起、方向付け 書いてみよう。	講義、質疑応答 グループワーク	pp.64-74 を読んでくる。 課題準備
11	全体の予告 〔本論編〕本論の役割	講義、質疑応答 グループワーク	pp.75-83 を読んでくる。 課題準備
12	論拠提示：データ提示、事柄データ	講義、質疑応答 グループワーク	pp.84-87 を読んでくる。 課題準備
13	数量データ、文章データ	講義、質疑応答 グループワーク	pp.87-93 を読んでくる。 課題準備
14	意見提示、データ解釈、考察	講義、質疑応答 グループワーク	pp.93-99 を読んでくる。 課題準備
15	結論提示、行動提示、論の展開 〔論文編〕結びの役割、全体のまとめ	講義、質疑応答 グループワーク	pp.100-122 を読んでくる。 課題準備
16	評価、展望提示	講義、質疑応答 グループワーク	pp.123-132 を読んでくる。 序論、論拠 A を書く。
17	中間発表①	質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
18	中間発表②	質疑応答	論拠 A までの口頭発表 小論文の文章化
19	中間発表③	質疑応答	論拠 B までの口頭発表 小論文の文章化
20	中間発表④	質疑応答	論拠 B までの口頭発表 小論文の文章化
21	中間発表⑤	質疑応答	結びまでの口頭発表 小論文の文章化
22	〔資料編〕図表、資料に関する表現 中間発表ふり返し①	講義、グループワーク 論文添削	pp.134-152 を読んでくる。 課題準備
23	展開の技術：例、対比、推論、結論 中間発表ふり返し②	講義、グループワーク 論文添削	pp.153-166 を読んでくる。 課題準備
24	論文の付属要素：表題、要旨、キーワード、 参考文献等 中間発表ふり返し③	講義、グループワーク 論文添削	pp.167-175 を読んでくる。 課題準備
25	論文作成 中間発表ふり返し④	グループワーク 質疑応答	課題準備
26	論文作成 中間発表ふり返し⑤	グループワーク 質疑応答	最終課題の提出準備
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
27	書いてみよう 雑誌などへの投稿規定を知る。	講義、質疑応答	自分が興味を持つ分野を考える。
28	小論文返却と講評	講義、質疑応答	授業のふり返し、まとめ

テキスト	浜田麻里、平尾得子、由井紀久子『大学生と留学生のための論文ワークブック』(くろしお出版)
参考書	上智大学短期大学部紀要
その他 特記事項	全国紙(新聞)、ニュース番組を通じて、日常的に社会事情に関心を払う。

科目名	SEF200: キャリアプランニング				担当教員	森下 園		
開講期	秋	開講時限	月 5 限	研究室	4202	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	2	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	キャリアデザイン、ライフコース、社会保障、労働法、卒業生との交流、職場での実務							
授業の概要	本学ソフィア会(同窓会)の支援により、社会の様々な分野で「Women for Others, with Others」を実践している卒業生の方々による講演・質疑応答を通して、卒業後のキャリアプランをどう組み立てるか考える。また、あわせて労働法などの基礎知識についても学ぶ。同窓生以外のゲスト講師の講義を2回含む。							
達成目標	卒業後の人生設計について様々な可能性やその実現に向けて必要なステップを考え、各自のキャリアプランを組み立てることが目標である。またそのために必要な知識・情報を適切に得る方法を身につける。							
到達目標	①現在の社会情勢と女性のライフコースの問題を各自で考え、卒業生の講演内容やグループワークを通して将来の多様な可能性について考察できるようになる。 ②労働法や社会人として求められる基礎知識を身につける。 ③各自のキャリアプランを設計できるようになる。							
評価方法	①リアクションペーパーを授業終了時に提出 (5%×13回=65%) ②労働法や社会の基礎知識に関する Moodle での小テスト (15%) ③キャリアプランの作成 (20%)							
評価基準	①リアクションペーパー:内容をきちんと理解しているか、適切な意見・質問が出されているか ②小テスト:就職活動でも求められる基礎知識が身についているか ③キャリアプラン:書式・期限を守り現実的なプランを作成しているか							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均190分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	ガイダンス、現代日本の女性のライフコース	講義、質疑応答	次回トピックの予習
2	社会が求めている知識と経験—新聞の読み方	講義、質疑応答、リアクションペーパー①	次回トピックの予習 新聞記事検索
3	編入・就職	講義、質疑応答、リアクションペーパー②	次回トピックの予習 小テストの準備
4	英語教育(1)教材開発	講義、質疑応答、リアクションペーパー③	次回トピックの予習 小テストの準備
5	英語教育(2)小学校外国語活動	講義、質疑応答、リアクションペーパー④	次回トピックの予習 小テストの準備
6	労働法・社会保障・社会人の基礎知識	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑤	次回トピックの予習 小テストの準備
7	総合職として働く	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑥	次回トピックの予習 Moodle小テスト受験
8	少子高齢化と地方行政、地方公務員	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑦	次回トピックの予習 キャリアプラン作成
9	金融機関で働く	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑧	次回トピックの予習 キャリアプラン作成

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
10	留学 小テストの講評	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑨	次回トピックの予習 キャリアプラン作成
11	航空業界で働く	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑩	次回トピックの予習 キャリアプラン作成
12	放送業界、アパレル業界、資格による自営留学	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑪	次回トピックの予習 キャリアプラン作成
13	情報・IT業界で働く (キャリアプランを定期試験期間に提出)	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑫	キャリアプラン作成
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	これからの社会と生き方 キャリアプランの返却と講評	講義、質疑応答、リアクションペーパー⑬	ふりかえり

テキスト	なし、授業内容のプリント配付またはパワーポイントスライドに沿っての講義
参考書	野村康則「女性のキャリアデザインと就業状況」『安田女子大学紀要』(43号、2015、CiNiiにあり、インターネット上で読める)
その他 特記事項	本講座は上智大学短期大学部ソフィア会(同窓会)の寄付講座である。社会で活躍されている卒業生の方々がボランティアで講師をご担当下さるものである。なお卒業生の講演内容・講演回は講師の方々のご都合により変更の可能性がある。詳細は9月に Loyola 授業掲示板にアップする。

科目名	ENG250: 留学準備 (イギリス)				担当教員	岩崎 明子		
開講期	春	開講時限	月 5 限	研究室	4213	オフィスアワー	P.19 を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2 年	連絡先		
DP 及び学修成果	DP 分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	留学に役立つ英国の日常生活、文化、習慣などの知識							
授業の概要	この授業では、本学が認定するイギリスのグロースターシャー大学での約4週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち、規律正しい、安心できる留学生活を送ることができることを目指す。授業時間を適宜分け、授業の前半では実践的英語表現の習得を目的とするトレーニングを行う。							
達成目標	学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことができるようになる。自国の文化と留学先の異文化を客観的に対比、理解できるようになる。さらに、留学に必要な英語表現を学ぶことにより、留学先での英語運用とより発展的な英語学習に備える。安全に留学が完遂できるよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。							
到達目標	① イギリス及び日本についての基本的知識を深め、自らの考えを英語で発信できる。 ② トレーニングを通して留学のさまざまな場面に必要な実践的英語表現を習得する。 ③ 海外生活での基本的マナーおよび危険回避について理解する。							
評価方法	PPT 発表 (イギリス : Pop-culture, Art, Food) グループ発表 1 回、評価 3 日分 25% 英語運用能力向上のための活動 (英語スキット) 40% Report: ① “Self-introduction 自分の家族、趣味、夢” (200wd~) 10%、② “What did you learn from the guidance of 危機管理?” A4 sized paper- 1page 10% Essay writing: “My Purpose of Studying Abroad in UK” (300wd) 15%							
評価基準	発表 : 十分なりサーチを土台に、アウトラインの明確な興味深い内容準備、効果的パワーポイント (PPT) の作成、十分な練習を経た理解しやすい発表ができたか。 英語スキット : 毎回担当したスキットをペアで暗記し、十分練習し良く演じられたか。 Report : ①自分の性格、家族、地域、学校、趣味、夢などを楽しく紹介できているか。②日本語で聞いた講義の要点を、英語のレポートに十分まとめられたか。 Essay Writing : なぜ短期留学を希望したのか個人的な理由だけでなく、留学することで何が得られるかを論理的に3つのポイントから指摘できているか。							
準備学修の時間	本科目の一回 (100 分) の授業のための授業外学修 (予習・復習) 時間は、平均 45 分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修 (予習・復習)
1	Course guidance, self-introduction About UK, its geography and history	DVD、講義 意見交換	自己紹介準備 資料をよく読み理解
2	☆手続きガイダンス JTB (30 分) 入国審査, 税関, 初めての挨拶	旅行会社説明 スキット、意見交換	Ut. 1, 2, 3, 4 暗記, *Self-intro レポート英語 (200wd) 提出
3	多民族国家 家族紹介, お土産, 家の中, 部屋の使い方	DVD、講義 スキット、意見交換	Ut. 5, 6, 7, 8 暗記
4	建物と造園, Cotswolds / Gloucestershire House rule, 門限, バスルーム, 洗濯, そうじ	DVD、講義 スキット、意見交換	Ut. 9, 10, 13, 14, 15 暗記
5	色々な言語? Scotts, Wales, Irish accents, 挨拶 頼む, 遊ぶ, 手伝い, わからない, 伝わらない	DVD、講義 スキット、意見交換	Ut. 16, 17, 18, 20, 21, 22 暗記

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
6	お金の計算, イギリスの博物館, 美術館 スーパーの買い物, バス, 電車, 地下鉄	DVD、講義、演習 スキット、意見交換	Ut. 61, 62, 63, 64, 65 暗記
7	Pop Culture in UK 自分の家族, 趣味, 学校, 日常生活, 友達	グループ発表 スキット、意見交換	Ut. 26, 27, 28, 29, 30 暗記
8	Literature and Art in UK 日本の環境, 教育, 住居, 食物, 文化・芸能	グループ発表 スキット、意見交換	Ut. 31, 32, 33, 34, 35, 36 暗記 日本文化紹介トピック報告
9	Food Culture of the UK: 朝食夕食の会話, 嫌いな物, fast-food, restaurant 注文, 支払い	グループ発表 スキット、意見交換	Ut. 39, 40, 41, 42, 54, 55, 56, 57, 58 暗記
10	☆危機管理ガイダンス (90分)	Sophia Campus Support 説明、意見交換	*危機管理レポート(英語)
11	調子が悪い時, 病院, 薬局, 授業の質問	DVD スキット、意見交換	Ut. 80, 81, 82, 83, 84 暗記
12	困った時: 忘れ物, 盗まれる, 迷う, 助けを求める, 謝る, 断る	DVD スキット、意見交換	Ut. 86, 87, 88, 89, 90, 91 暗記 *Essay 提出
13	☆出発前ガイダンス (JTB) 60分 日本文化を紹介しよう	旅行最終説明 (JTB) DVD、講義	日本文化紹介写真 PPT 用意
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	まとめ, レポートの評価, Essay の返却 日本文化紹介について分かち合い	講義、意見交換 評価	日本文化紹介写真 PPT 用意

テキスト	桑原功次著『ホームステイの直前英会話』(ナツメ社) 他ハンドアウト。 Mandy Barrow "Project Britain -Your Guide to British Life, Culture and Customs" http://projectbritain.com/
参考書	「日本の情報(英文)」Information about Japan (link) http://www.mofa.go.jp/j_info/japan/general/index.html 『海外で困ったら、大使館・領事館のできること』(外務省)
履修条件、前提科目	今年度イギリスのグロースターシャー大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。

科目名	ENG251: 留学準備 (オーストラリア)					担当教員	宮崎 幸江	
開講期	秋	開講時限	木5限	研究室	4217	オフィスアワー	P.19を参照のこと	
分類	選択	単位	1	標準受講年次	1・2年	連絡先		
DP及び学修成果	DP分類	DP(卒業認定・学位授与の方針)概要					学修成果獲得の観点	
	4	専門的知識を身につけ、自律した学修者として研究する力を修得できます。					4-①	
キーワード	異文化理解、海外生活と安全管理の基礎知識、日本文化を紹介する英語表現							
授業の概要	この授業では、本学が認定するオーストラリアのボンド大学での約4週間の海外短期語学講座プログラムに参加する学生が、同プログラムに関する予備知識や、渡航、現地生活、安全管理に関する留意事項を学び、各自が目的意識を持ち留学生活を送ることができることを目指す。また、現地で積極的に交流できるようになることを目指す。							
達成目標	学生は留学先で想定される異文化体験への準備を行い、自分自身の学びと成長の軌跡を省察し、目的意識と自信をもって留学に向かうことができるようになる。自国の文化と留学先の異文化とを客観的に対比、理解できるようになるとともに、日本の文化(日本の衣食住、伝統文化等)について学び、英語で交流する力をつける。安全に留学が完遂できるよう、海外生活に関する知識、心得、及び危機管理の方策を学ぶ。							
到達目標	(1) オーストラリア及び日本についての基本的な知識をもち、自らの視点で英語を使って発信できる。 (2) 留学の様々な場面において必要な英語表現の知識を持つ。 (3) 海外での基本的なマナー、及び危険回避について理解する。 (4) 現地で日本の文化を自分のことばで紹介できる。							
評価方法	発表 25% : オーストラリアのニュース、文化、歴史、伝統などに関して口頭発表 小テスト 35% : 英語会話に関するもの スキット 20% : 英語で日本について紹介する エッセイ 20% : My study abroad (1500 words)							
評価基準	発表 : オーストラリアについて自分で調べたことについて要点をまとめて発表できているか、また、発表を聞く際に質問ができるかを評価する。 小テスト : テキストの英会話の内容を暗記し、運用できる。 スキット : ホームステイ先で、ホストファミリーに日本の文化を説明する。 エッセイ : 留学の目的を英語で明確に述べられる。							
準備学修の時間	本科目の一回(100分)の授業のための授業外学修(予習・復習)時間は、平均45分が求められる。							

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
1	留学プログラムについて導入 ボンド大学について	講義、質疑応答、ディスカッション	ボンド大学について調べる。
2	留学の意義、オーストラリアについて Unit 2~7 入国審査、税関での会話他	講義、質疑応答、ロールプレイ	テキスト①Unit 2~7を読む。
3	手続きガイダンス 30分 オーストラリアについてプレゼン①	ガイダンス、講義、プレゼン、質疑応答	テキスト①Unit 8~16を読む。
4	日本文化について②pp.5~13 「おもてなし」を英語で説明する	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト②pp.5~13を読む。 プレゼン準備。
5	日本文化「食」: ユネスコ世界遺産「和食」と「和菓子」	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト②pp.66~73を読む。
6	家族と親しくなるために Unit 17~25 小テスト、テストの解説	講義、小テスト、ロールプレイ	テキスト①Unit 17~25を読む。

授業計画			
回	テーマおよび学習内容	運営方法、教育手法	準備学修(予習・復習)
7	日本文化「飲茶の歴史」: 紅茶と緑茶の違い	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト②pp.78~84を読む。
8	日本を紹介する Unit 31~36 小テスト、テスト解説	講義、小テスト、質疑応答、ロールプレイ	テキスト①Unit 31~36を読む。
9	日本文化「住」: 和室と洋室の違い	講義、質疑応答、ディスカッション	テキスト②pp.22~29を読む。
10	危機管理ガイダンス (90分)	ガイダンス、総括、質疑応答	テキスト①Unit 51~60を読む。
11	食事のマナーとルール Unit 37~49 小テスト、テスト解説	講義、小テスト、ロールプレイ	テキスト①Unit 37~49を読む。 テスト勉強、スキット準備。
12	病気をトラブル Unit 80~91 オーストラリアについてプレゼン②	発表、質疑応答	テキスト①Unit 80~91を読む。
13	出発前ガイダンス、スキット「ホストファミリーに日本文化を紹介する」グループ1	講義、質疑応答、ロールプレイ	テキスト①Unit 61~80を読む。 スキット準備。
定期試験を実施しない Final Exam will not be held			
14	スキット「ホストファミリーに日本文化を紹介する」グループ2と3	発表、質疑応答、ロールプレイ	スキット準備、エッセイを書く。

テキスト	① 桑原功次『ホームステイの直前英会話』(ナツメ社) ② Randy Channell Soei. "Bilingual The Book of Chanoyu Tea...The master key to Japanese culture" (淡交社).
履修条件、前提科目	今年度オーストラリアのボンド大学で行われる海外短期語学研修プログラムに参加することが履修の条件である。